

(C) Copyright CANVASs Co., Ltd.

=====

【ソフト名】 SST G1Pro アップデートインストーラ

【対象製品】 SST G1 Pro 日本語版 / 英語版

【登録名】 SST G1 Pro Ver.3.1.27

【アプリケーション名】 setup.exe

【著作権者】 株式会社カンバス

【動作環境】 Microsoft Windows 10 / 11 / 日本語版 / 英語版

【配布条件】 1) ダウンロードしたファイルの再配布を禁止します。
2) 他のメディアへの一切の転載を禁止します。

=====

<Ver.3.1.27> 2025.6

1) 仕様変更

- －OneDrive 問題対応
- －スマートアプリコントロール対応

2) 機能修正

製品をアップデートするにあたり、以下の注意点がございます。

該当する方は、注意事項をお読みいただいた上でアップデートしていただくようお願いいたします。

[○SSTG1Dub をご利用のユーザー様へ：必ずお読みください](#)

[○Ver3.1.13 をご利用のユーザー様へ：波形データ削除のお願い](#)

[○再インストール時のチケット消費に関する注意点](#)

[○再インストール後にショートカットキー等の設定を引き継ぐための注意点](#)

本バージョンアップによる変更

1) 仕様変更

●OneDrive 問題対応

ードキュメントフォルダが OneDrive と同期する設定になっている PC の場合、SSTG1Pro の設定ファイルの保存先が OneDrive のドキュメントフォルダからローカルドライブのドキュメントフォルダへ変更になります。

! ドキュメントフォルダを OneDrive と同期していない PC では、本バージョンの仕様変更による影響はございません。

今回の仕様変更は、ご利用の PC で、ドキュメントフォルダが OneDrive と同期している方が対象になります。

<ドキュメントフォルダがOneDriveと同期しているかの調べ方>

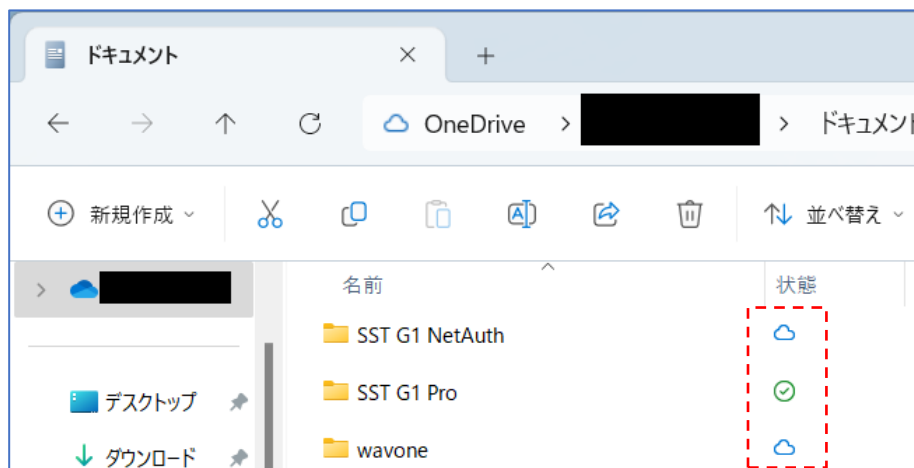
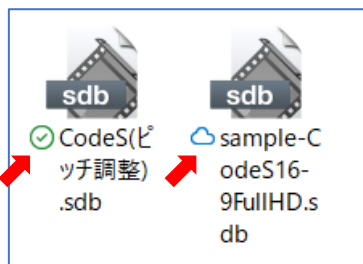
①ドキュメントフォルダを開き、フォルダ内の「SST G1 Pro」を右クリック→プロパティを開く



②「場所」が

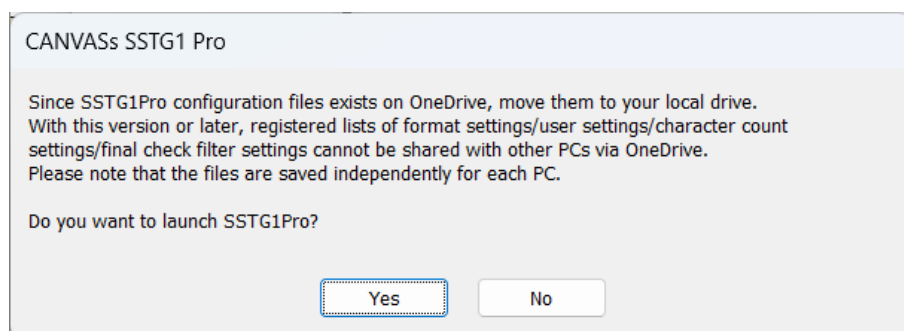
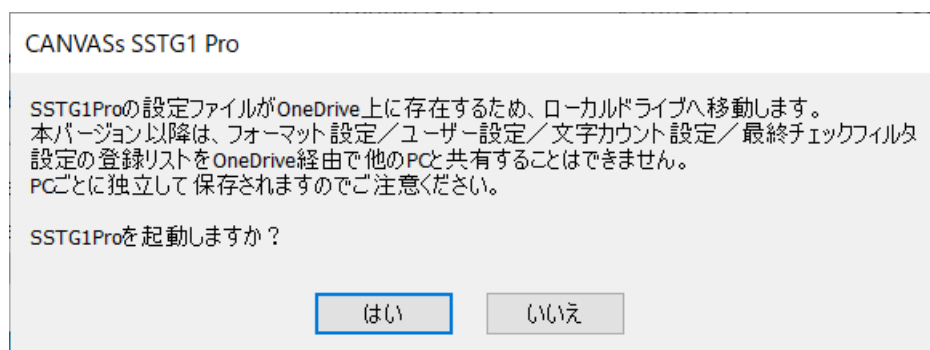
C:\Users\<ユーザー名>\OneDrive\ドキュメントのように「OneDrive」が入っていた場合、OneDrive と同期されています。

③また、ドキュメントフォルダを開き、フォルダやファイルのアイコンに  マークや  マークが付いている場合、OneDrive と同期されています。



●アップデート後のメッセージについて

ドキュメントフォルダが OneDrive と同期している場合、アップデート後に初めて起動すると以下のメッセージが表示されます。



ここで「いいえ」をクリックすると、以下の変更はせず、ソフトは起動しません。

ここで「はい」をクリックすると、OneDrive 上の SSTG1Pro の設定ファイル（※）がローカルドライブにコピーされ、これ以降はローカルドライブの方を参照／更新ようになります。これまで設定したリスト等が消えることはございませんのでご安心ください。

※SSTG1Pro の設定ファイルには、以下の情報が含まれます。

- ・フォーマット設定のリスト
- ・ユーザー設定のリスト
- ・文字カウント設定のリスト
- ・最終チェックフィルタ・最終チェックのチェックワードのリスト
- ・映像ファイルと sdb ファイルの紐づけ情報

 本バージョンにアップデート後は、SSTG1Pro の設定ファイルはローカルドライブに保存されるようになるため、他の PC と SSTG1Pro の設定を OneDrive 経由で共有することはできません。PC ごとに SSTG1Pro の設定を行ってください。

 本バージョンから Ver. 3.1.26 以下にダウングレードした場合、ドキュメントフォルダを OneDrive と同期している PC では、SSTG1Pro の設定ファイルの保存先が OneDrive に戻ります。このため、本バージョンで設定したリスト等は消えますのでご注意ください。

なお、バックアップファイルの保存先・波形データファイルの保存先・定期バックアップファイルの保存先フォルダは、OneDrive になっていたとしても変更されません。変更したい場合には、[設定]メニュー→[ユーザー設定]→[メンテナンス]タブより変更ください。

今回の仕様変更の経緯

Windows10 からの OneDrive 導入により、ご利用の PC でドキュメントフォルダが OneDrive と同期する設定になっていた場合、SSTG1Pro の設定ファイルも OneDrive のドキュメントフォルダ内に保存されていました。

それにより、起動時に OneDrive 上の設定ファイルを SSTG1Pro で上手く読み込めずエラーが発生したり、別の PC と同期したことで設定ファイルのデータが上書きされてしまい登録したリストが消えてしまったり、sdb ファイルの保存や波形データの読み込みが正しくできなかったりする等の問題が発生していました。この問題が発生した場合、対応方法は OneDrive との同期を解除していただくしかありませんでした。

このため、本バージョンからは SSTG1Pro の設定ファイルは OneDrive の影響を受けないローカルドライブに保存するよう変更いたしました。

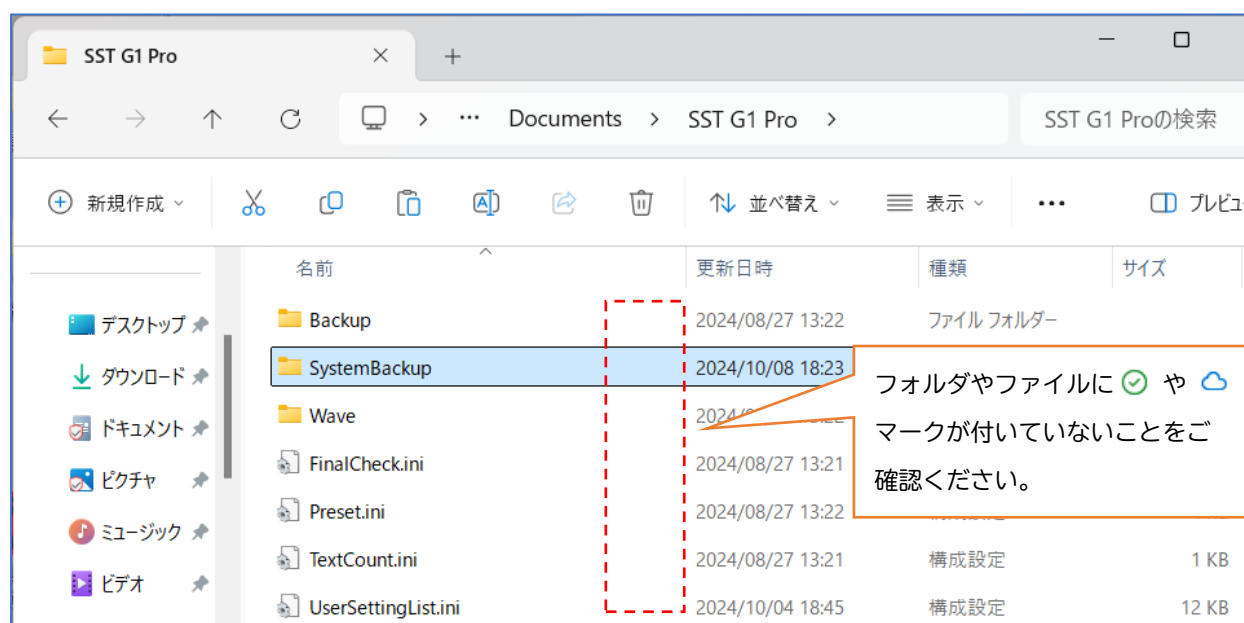
●SSTG1Pro の設定が消えてしまっていた場合の対処法

万一アップデート後に SSTG1Pro のユーザー設定やフォーマット設定が消えてしまった（初期化されてしまった）場合、以下の手順でバックアップから復旧が行えます。

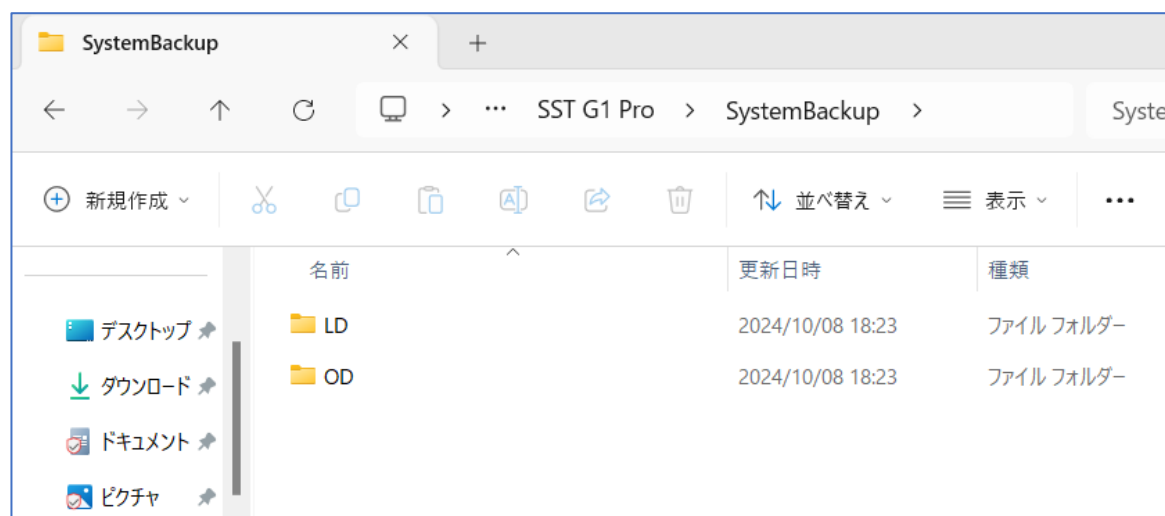
①ローカルのドキュメントフォルダ（C:\%Users%\<ユーザー名>\Documents\）内の[SST G1 Pro]フォルダを開く。

※OneDrive ではなくローカルのドキュメントフォルダです。

②[SST G1 Pro]フォルダ内の[SystemBackup]フォルダを開く。



③[SystemBackup]フォルダに[LD]と[OD]フォルダが存在していることを確認し、
ドキュメントフォルダがローカルの場合：[LD]フォルダを開く
ドキュメントがOneDrive と同期している場合：[OD]フォルダを開く



④③で開いたフォルダ内のファイルをすべてコピーし、ローカルのドキュメントフォルダ内の
[SST G1 Pro]フォルダ (C:\Users\<ユーザー名>\Documents\SST G1 Pro) 内に貼り付ける。
同一のファイルが存在した場合は上書きする。

⑤SSTG1Pro を開き、ユーザー設定やフォーマット設定が復旧されていることを確認する。

●SRT (SubRip Text) インポート

ー[詳細設定]タブの「時間が連続している字幕の扱い」の項目のチェックボックスの文言を下記のように変更しました。文言の変更のみのため、仕様は従来と変わりありません。

<変更後>

SubRip Text のインポート - 詳細設定 -

全般 詳細設定

エンコードの種類
ASCII + Shift-JIS

時間が連続している字幕の扱い
☐ 特定のファイルの場合、直前の字幕との差分を別トラックに入れる

<変更前>

SubRip Text のインポート - 詳細設定 -

全般 詳細設定

エンコードの種類
ASCII + Shift-JIS

時間が連続している字幕の扱い
☐ 別トラックに入れる

●スマートアプリコントロール対応

ーソフトウェアのデジタル署名を強化しました。

Windows11 のセキュリティ機能「スマートアプリコントロール」への対応として、デジタル署名を強化しました。

これまでのデジタル署名では、スマートアプリコントロールの影響により SSTG1Pro に下記のような不具合が出るがありました。

- ・「スマートアプリコントロールによってブロックされました」等のメッセージが出て SSTG1Pro が起動できない。もしくは映像ファイルが読み込めない。

2) 機能修正

－ソフト起動時に「バックアップ先（波形データの保存先）フォルダーのパス XXX が見つかりませんでした YYY に設定します。」とメッセージが出続けてしまう問題について、メッセージが出なくなるように対応しました。

特定の条件で、ソフト起動時に上記メッセージが出ることがあります。これまでは、このメッセージで [OK] をクリックしても YYY にフォルダが設定されず、再度起動した際にまた同じメッセージが出る、ということを繰り返していました。このため、このメッセージが出た場合は YYY にフォルダを設定するように修正しました。

－Ctrl+Shift+6 を押した際、不正な文字コードが入ってしまう問題について、文字が入らないよう対応しました。